

所内に於ける國歌合唱も近代日
日本へ始めて來た外國勞動者
が經濟早頭か東京縣に於て、旗
日本でもない日に國家君ヶ代を合
唱したたらどんなものであらぶ、
素より悪いことでないから日本
國民は之を歎つたり叱つたりす
ることはせぬが、心ある者は必
ずや諒に思ふであらぶ。

それと丁度同じことが最近ブ
ラジルに來た日本移民によつて
演ぜられた。即ち移民が收容所
に於て前後二三回ブラジル國歌
を合唱した。殊に一度などは農
務官長フエルナンドコスタ氏が
口ものと思ひ付てあらぶが海興
の際に歌はれども心ある者は吉
み思はぬ者はない。現に先週
の外字新聞紙上では日本新移民
のブラジル國歌合唱を評し、彼
等は果してブラジル國歌を合唱
する資格ありや、と皮肉つて居
る。全くその通りである。讀者
は専筆を垂め日本人が伯國獨
立祭に、ブラジル人を招いてフ
ラガスをする者などあるが、彼
等は果して我々と同一の事
の傾向がある。殊に最近の日本はそ
の傾向が一段とよき事である。收容
所内に於ける國歌合唱も近代日
本へ始めて來た外國勞動者
が經濟早頭か東京縣に於て、旗
日本でもない日に國家君ヶ代を合
唱したたらどんなものであらぶ、
素より悪いことでないから日本
國民は之を歎つたり叱つたりす
ることはせぬが、心ある者は必
ずや諒に思ふであらぶ。

それにして外國へ來てまで、世
要らざる事はせずもがなだ、世
間で空世辭を並べて好感を克
得たためしがなく、空世辭で好
きをかち得たなどと自惚れる者
は低級なる青年外交官の間によ
り見ゆる事は多くは失敗の
畢竟するに空世辭は處まで失敗
するが、それも多くは失敗の
眼にもそらんらしいとしか映ら
ない。新來移民が收容所内に於
てブラジル國歌を合唱するなど
は猿の眞似、之れを以てブラ
ジル人の好感をかち得るなどと
考へるのは間違つてゐる。何所
に引受けたるに於て、目下の所
の移民が着旱々ラジウムの國歌
をうたうなどと空々しい事をす
る者があらぶ。黙つてをればよ
くもそれを要らざることをして態
々とアラジル人の識者から嗤はれ
る引合はない話である。民運送を
一手に引受けたるに於て、目下の所
の送事務に於ては、所をみるに於
ては宣しく取締つて、あんな馬鹿
だ藝術が知らぬが離分と念の入つ
た空々しいデモンストラシオン
である。大方低級なるボヤヂイ
の如きは、必ずしも心ある者は吉
み思はぬ者はない。現に先週
の外字新聞紙上では日本新移民
のブラジル國歌合唱を評し、彼
等は果してブラジル國歌を合唱
する資格ありや、と皮肉つて居
る。全くその通りである。讀者
は専筆を垂め日本人が伯國獨
立祭に、ブラジル人を招いてフ
ラガスをする者などあるが、彼
等は果して我々と同一の事
の傾向がある。殊に最近の日本はそ
の傾向が一段とよき事である。收容
所内に於ける國歌合唱も近代日
本へ始めて來た外國勞動者
が經濟早頭か東京縣に於て、旗
日本でもない日に國家君ヶ代を合
唱したたらどんるものであらぶ、
素より悪いことでないから日本
國民は之を歎つたり叱つたりす
ることはせぬが、心ある者は必
ずや諒に思ふであらぶ。

日伯新聞

Caixa No. 375
Phone. 2-3926
アーバン・ダーラ・アーヴィング
外紙定價年金三十ミル
十四字語二面二百レーピス

診察時間 午後六時まで
ドクトル 高岡專太郎
電話 二一四一八〇

ルアーファグンズス八

眼鏡

大統領問題の雲行

は至るまいと見られてゐる。斯くして革命一派はその内情で白日身にされるのである。

同盟派では所屬議員が決して採決に加らず日程不延の策をとらんと威嚇すれば政府は九月一日限り議會を開ちてしまうとの壯闘はますく政府派に有利になつて來た。一方同盟派ではサンバウロ州を始め各地に多少發生しかかつてゐる民主黨に望を觀されて居るが、その中最も有力なのはアントン・ナッシュ民主黨は現政府に至つて兩州とも現政府に賛成することになつたが二十小州の賛否は殆んど問題にならぬ。

小綱工戦でぞり合ふ

近年にない珍しい現象で國家のため結構なことである。只どの細工が行はれてゐる戦は最早さくらざる形勢となつたが斯くは戦はすして既に決してゐる觀が堂々と大綱工選舉を争ふことはある。

亞洲の検疫撤廃

伯國黃熱病發生のためアルゼンチンはリオ結由の諸船舶に嚴重な検疫を施した上、四十八時

間も止めをくことにした爲め伯國の被る打撃は甚大であつたがその後熱病も次第に下火となつて今殆んど終了したところから亞洲政府でも今遂に同種の検疫を撤廃することにし、去二十三日のサントス丸で出發した。

アントンは小犬と馬どもがふのとショフエーロ後で大こぼし。

アントンはあんな苦しい事はなかつた。

アントンは邦貨圓に付三、八九〇

と爲替

アントンは小犬と馬どもがふのとショフエーロ後で大こぼし。

アントンは邦貨圓に付三、八九〇

と爲替

アントンは邦貨圓に付三、八九〇

と

◆ 我等の俳句 ◆

〔二〕 木村圭石 檜原に来ればまの邊り
山焼く火 檜原に來ればまの邊り
秋 櫻子
今まで通つて來た林の中は、
山踏が上り下りになつてゐて、常に目
を遮ぐるものがあつて、火を見
ることが出来なかつた。それが
檜原から出ると、其處に平らかな
木も亂雜に茂つてゐて、常に目
を遮ぐるものがあつて、火を見
ることが出来なかつた。
山中の平地が、一面にび廣が
林してあつて、比較的平らかな
山地がある。其林につづいてゐる
向ふにある山の火は、手に取る
如く見えると云ふことになる。即
ち檜の森と云はずに、檜原と云
つたところが眼目である。

狐火やまとこと
顔にも一くさり
青 破
『まこと顔なる』とは、こちら
が其火を見て「あれが狐火とい
ふものか知らん。さうかなあ、
と感ずる時に、それが狐火の側
になつて見ると『まこと顔』に
燃えてゐると云ふことになる。
即ち一列の火が、田園道が何か
に燃えてゐる。人々があれは狐
火だといふ。あれが狐火といふ
ものかと感じる時向ふの狐火が
『まこと顔』に燃えてゐる譯である。
この句は客觀句ともいへれば、
主觀句とも云へると思ひます。
大嶺やすそ曲の道を炭車
誓子

旅の捨ひもの（三）

毒矢

そのチエテ河の支流を今度の雨で流された橋のわきに作つた假橋を渡ると、それこそ、とてつもない豚の脊に駆け登つた。おかげで道は良いが見えるものは砂がりのだ、廣い道とバルを守らんとするもの、或は最も穩健に、寫生と調べとを渾然として一致せしめ、落着いて自分の藝術を培つて行かんとするもの等各方面に亘り、精細に例句を示して解説しませう。

それが吾々日本人にとってもつけの幸である。これを解説するもやこしいが、サンバウロ州の關門に海岸山脈があつて交通を阻む、おかけで奥地の發展が遅れた。そこが日本人のつけで、どんどん入り込む余ゆう

して、終に此處まで來たのであります。即ち表面はどこまでも、即ち客觀的といふ主張を捨て、赴むところに赴しめんと觀の運動が取されます。而して之は頑強に客觀趣味を鼓吹して得たる賜物であります。

以上虚子先生所論の大要であります。が客觀的推重の起くところは、しん／＼として盡くる所なく、之れが爲めには我等の尊奉する「寫生の大道」に依て進むの外なく、次面に於ては、ホトギス誌上に於ける秋櫻子の「近代俳句私考」に據り、寫生の精細なる試み、之れが爲めに起り来れる不熟語、其他の欠點より、翻へて清新なる感、情を詠はんとする試み、或は寫生の範圍を擴げんとして、前人未踏の境地を開拓せんとする企進んでは、五七五の調へを縱横に驅使して、寫生を表とし、主觀を裏箱とし、而も用語の本格化を守らんとするもの、或は最も穩健に、寫生と調べとを渾然として一致せしめ、落着いて自分の藝術を培つて行かんとするもの等各方面に亘り、精細に例句を示して解説しませう。

この耕地には、ブラジルの企業が最も多くあります。日本船渠の企業さんが大勢ひで入植するのも、やがて比較されるだらうがそこがそれ名支配人北村さんがそこがよいのは夢うたがうべからず。

その夜はとうとうお神輿を据えて談笑數刻に及んだ。ボツカツからアヴァアレーまで大したカンボだ、お蔭様で人間らしいものには大して會はない。やはり人間は土に支配されるんぢやと考へた。アヴァアレーは此の地帯はエスピゴンが悪るくて河の邊が地力が強い。この邊の綿作者は河の邊に叢がる、そこでマラリヤをやる。所で此の地帯はエスピゴンが本場、綿作で一時は大した景氣だった。一夜の興に五百バウをもおしくないほど賑はつた所で一きりはピンガがウイスキーに代り丁だ半だとデカイあぶく錢のやりとりもあつたが、今日ちやや梢もトミル切れるので青息吐息の不景気さだ。

アヴァアレーと云ふと借地農の所で棉であるが、棉と云ふと石油、鐵とともに人類につての必需品の一つである。棉がなくては國が立たない人民が暮せない。で棉は世界的商品であるのに異論はないから値段がその年の作できまるのでもなければ金融の具合で定まるのでもない。それが北米や印度あたりから壓されてくる。とどのつまりは本年みたいに牛作で品物は良くとも値が安い。いくらジタバタしても値が安ければ世界の市價を動かすには品質が一樣な品物を大量に出さねばならない。

そこで話をもう一度あともどして、そう／＼マリ・ヤには今鐵道の外に六本の乗合自動車道がある、と云ふ所迄話してゐたやうだがそこで筆者はこれが経営者の話をせんが爲めにこんな廻り道をしたわけだつた。で今云つたべっべなる男、もつと正確に云ふとベッペを責任者とするべつ三三人兄弟商會なるものが即ちマリリヤ乗合自動車會社の經營者なのである。

◆

「居は氣を移す」と云ふか、近頃の彼のどこを見ても昔山の中を横行した當時の面影はみじんも見出せない、此頃の彼は正に堂々たる事業家である、ハトロン然としてゐる。ドーチ型の乗合十八臺、客用車、貨物車の數臺、それに自家専屬の工場を持ち、タイヤその他自動車必需品と來たらそちらの専業代理店の二軒分位常に擁してゐる、その外にマリリヤ近く百アルケイレスに何力本のか珈琲園の經營もやつゐる、だから今日々此の地の話もすんだから、こゝで話を更にもう一度あとにもどしてどうもこう何度もあともどりばかりしてゐては話が一向進まないやうで讀者に對して誠に申譯ない次第だがそして筆者も實は大いにへき易てゐるのだが始めた事で止むを得ないもう一度初めからマリリヤ現在の話を遣り直さう。

CASA CRYSTAL
ALMEIDA BARROS & FILHO
Rua Olavo Biac, 24 LINS

Casa Palma
ARAÇATUBA - E. F. N. B.

Casa Uehara
販賣貨雜及品料食
□ 達用御者國歸 □
店商原上
六十 ロブンテツセ・デ・テツセ・ゴルラ
四〇八一 話電 市ストンサ

Casa Taiyo
Caixa, 76 - ALTO CAFEZAL
太陽商店
延マリリヤ・ス街
岡小崎川司健六
郵局七夕
御品に限らず御客様の
又親切第一に御用を承
り願ひますから何卒御引立
具日用品、金物等日用品、玩
物、本食料品、小間物、玩

CASA AOKI
LINS
内貨雜外木青
七三一函郵スンリ

An advertisement for Domingos da Costa Meini. It features a black and white photograph of a vintage car, possibly a Chevrolet, with a sign attached to its front grille. The sign reads '時代は走る!!!' (The era is moving!!!) above the brand name 'シブロレー' (Chevrolet). Below the brand name, it says '舊式は中古物あり。支拂法簡易' (Old models are second-hand. Easy payment method). To the left of the car, there is a vertical column of text in Japanese, listing various products and their uses. At the bottom left, there is a small logo for 'サントニン 錠錠' (Santoni Pill Box).

サンタス代理店
OSWALDO CONCEIÇÃO & CIA.
Rua Amador Bueno, 104 - SANTOS

聖上行幸映畫を

近信△

八丈、大島、關西の御動靜を

葉山御用邸で

馬ヶ岳大爆發の慘狀
十年の沈默が破れて

西行幸の御模様を映畫に記録し
たが、葉山御用邸に御養育中の
皇后陛下に右側面を御上する
ととなり、宮内省に手續を取つ
た。同省では一日も早く御覽に
供したいとの意味で、直ちに御寫
眞所に九條罕典長、岡部式部次
長、事務官等が參観試験を行つ
た。上宮内官が葉山御用邸に持參
したが、皇后陛下には照管と共
に御所にお出ましになり、大島
八丈島、糸島における聖上陛下
の御動靜並に各地の風光を御興
味深く御覽遊ばされた。

馬ヶ岳大爆發の慘狀

降灰雲なほ暗く地震地鳴り交通通信全く絶え

恐怖時代死傷者算なし

馬ヶ岳大爆發をなじむ

馬ヶ岳大爆發をなじむ</

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonez de maior circulação no Brasil

Anno XV

São Paulo — Quinta-feira, 25 de Julho de 1929

Num. 634

NIPPAK SHIMBUN

Propriedade e direcção de:
SACK MIURA

Redactor:
Jorge T. Midorikawa

Redacção, Administração e Oficinas
Rua da Liberdade, 146
Caixa Postal, 375
Telephone, 2-3926
Endereço Telegráfico "NIPPAK"
SÃO PAULO — BRASIL

ASSIGNATURAS

Para o Brasil:	30\$000
Por semestre	16\$000
Número avulso	\$500
Para o Exterior:	60\$000

ANNUNCIOS

Temos á disposição dos interessados uma tábua completa de preços para anúncios nesta folha. Telephone 2-3926

NOTAS E INFORMAÇÕES

Desde hontem acha-se instalada na sede do consulado geral do Japão nesta capital, a conferencia dos medicos japonezes residentes neste Estado, afim de se deliberar sobre as medidas prophylacticas a serem tomadas nas colonias japonezas localizadas no Interior.

Ao que consta, o governo japonês está disposto a auxiliar esse serviço com a somma de 75.000 yens annualmente, cuja applicação constitue o objecto desta conferencia medica.

Desde ha dias acha-se neste Estado, tendo feito varias visitas a colonias japonezas, o sr. prof. Okuni, lente da Faculdade de Comercio de Osaka.

NOVO NUMERO DO NOSSO TELEPHONE:

2 - 3926

Louças, Artigos Japonezes e Nacionaes

K. NISHITANI

IMPORTADOR E EXPORTADOR

Rua Conceição, 88
End. Teleg. NISHITANI

Caixa do Correio, 1134
RIO DE JANEIRO

"O JAPÃO EM SÃO PAULO"

FUNDADA EM 1906

ARTIGOS JAPONEZES EM GERAL

RUA S. BENTO, 60 — S. PAULO

Telephone: 2-2788

Caixa Postal, 344

CHRONICAS MIGRATORIAS...

(Philosophia barata)

A logica nem sempre tem suas finalidades... Por exemplo, a reprodução humana sempre para mais, enquanto o mundo gira, mas gira sem crescer, se não cresce...

A superpopulação é uma logica muito natural. O Supremo Criador que ainda não chegou a conhecer, assim a determinou. E para onde se despeja toda essa gente?

O espaço é immenso — diz um monge, um astronome, um filósofo. Mas nada vejo o tal de espaço, para resolver o problema da superpopulação!

O mar é um colosso, murmura por ahi afóra um vento salgado. Mas se o é um facto, porque aquela intriga russo-japoneza? A agua é abundante, o peixe nada sem limite nem fronteira. Essa bobagem de arame farpado...

As andorinhas procuram, o clima que lhes convém. Vejam o seu traje: tão leve e tão diaphano. Passaporte? Hom'essa! — respondem elas, para que um papel sujo de tinta.

— Esqueceu-se de uma coisa?

— Não senhor.

— Mas...

— Ah sim! Perdão. Não trago a bandeira nem o hymno. Tenho o hymno que todo mundo gosta. Uma coisa que nunca aprendi, é conjugar o verbo "bajar".

Sou sincero e é o que basta — prosegue uma andorinha. Do fundo do coração, amo onde me é hospitalero. Aos lindos campos

PHOTO
OTTO STUDIO
TELEPHONE 2-5400
Rua da Liberdade, 70
SÃO PAULO

MATRIZ - RIO

Rua Theophilo Ottoni, 85
CASAS NO JAPÃO
NAGOYA, KOBE E YOKOHAMA

Endereço Telegraphico:
"HACHIYA"

Hachiya, Irmãos & Cia.
IMPORTADORES DE LOUÇAS, BRINQUEDOS, ARMARINHO E ARTIGOS JAPONEZES

R. Brigadeiro Tobias, 110
TELEPH. 4-7688
SÃO PAULO
CAIXA POSTAL, 2670

AS TARIFAS DE OUTR'ORA

Faz precisamente setenta annos que a civilização occidental veio bater ás portas do Imperio de Sol Nascente, que permanecia em completa sonnolencia, convidando-o para abrir as suas portas cerradas pelo feudalismo alli dominante. As transacções foram estabelecidas. Os occidentaes firmaram, então, com o Japão, varios tratados, nos quaes, aproveitando-se da completa fallencia destes em noções tarifarias e juridicas, impuzeram grandes inequidades e desigualdades nas clausulas, entre as quaes se podem destacar o regimen de jurisdição exterritorial e a limitação dos direitos aduaneiros sobre os artigos importados pelos portos japonezes, em cinco por cento no maximo, quaesquer que fossem as especies. O Japão conseguiu abolir este régimen em 17 de julho de 1898, enquanto o seu vizinho, China, que conta mais de oitenta annos, desde que firmou tratado com a Inglaterra, não conseguiu até hoje, libertar-se desse jugo dos estrangeiros.

* * *

O triumpho da diplomacia japoneza em face da reforma de tratados com as potencias não foi entretanto producto de uma simples troca de conferencias diplomáticas. Para chegar a essa culminância, dissensões e vicissitudes amargas não faltaram ao governo. Por um lado, a agitação da politica interna, constituída de poucos homens capazes de orientar os destinos da nação, que se collocava numa phase tão saliente de transformações, como era o Japão naquella época. Por outro lado, os povos occidentaes não tinham no esquisito paiz do Extremo Oriente uma nação merecedora da igualdade de direitos em tratados, por quanto o seu governo não se mostrava forte bastante para reprimir o xenofobia que reinava a maior parte do seu povo. Justamente quando entre Aoki e Kimberley, ministro japonês e ministro das Relações Estrangeiras da Grã-Bretanha, estavam sendo ultimadas as negociações em torno da reforma, no congresso japonês, que contava ainda poucos annos de sua constituição,

FOLHETIM

AS NUVEIS DO EXTREMO ORIENTE

DE MIDORI KOMATSU

(Traducção de Joe Maddi)

fôra aprovado um projecto do deputado Abei, extremamente xenófoba, oppondo-se ao projecto da reforma que abria francamente as portas aos estrangeiros, o que motivou um desendo ás negociações anglo-japonezas. Mutsu, porém, manteve firme o seu propósito, dissolvendo imediatamente o congresso, após um longo discurso que pronunciou em sessão, em defesa do seu projecto.

* * *

Em 13 de julho de 1894, Mutsu recebeu do representante japonês em Londres, o seguinte telegramma:

Snr. Ministro —

Amanhã será firmada reforma tratado.

Aoki, ministro japonês.

* * *

A infinita alegria de Mutsu, em ver o seu projecto ao caminho da solução, durou pouco. Pois, no dia seguinte fôra surprehendido com o seguinte telegramma de Londres:

Snr. Ministro —

Ministro Kimberley nega assignatura reforma tratado anglo-japonez allegando ter ministro japonês Seül insinuado governo coreano dispensar serviço Coldwell instrução militar e ter tropas japonezas instalado fios telegraphicos através colonias estrangeiras Gensan. Ministro espera satisfação do governo japonês até segunda feira proxima sobre caso Coldwell e revogar insinuação do governo coreano imediatamente, sem o que não será assignada reforma.



O BEIJO ENTRE POVOS

I

Precisamente tres annos a-traz, se me não falha a memoria, um individuo supersticioso corria as principais ruas de Tokio, beijando em imprevisto numerosas damas que transitavam, ostentando seus vestidos diaphanos e suas toaletes elegantes. Esse individuo foi preso em flagrante por inspectores da polícia de segurança pessoal, sendo conduzido ao gabinete. Interrogado pela autoridade, declarou o individuo que assim procedera, porque estava na certeza de que conseguia uma esposa bonita, se elle contasse 3.000 entre as damas que receberam seus beijos. Que fez a autoridade? Limitou-se a admoestalo e nada mais. E a imprensa? Encarou o caso como uma "charge" e nada se incomodou com a face moral do caso.

* * *

A justiça allemã encara o beijo sob diferentes pontos. Na cidade de München, ocorreu em 1913, um caso curioso: uma moça foi beijada por um carteiro quando recebia da mão deste uma carta. O carteiro não estava soffrendo, segundo a declaração propria do delinquente, faculdades mentais. Em vista, porém, da offendida, uma menina linda, ter beijado a carta que lhe fôra entregue

culturas physica e espiritual, como parte integrante da vida diaria.

DR. S. TAKAOKA

MEDICO - OPERADOR

Rua Fagundes, 8
Tel. 2-4180

S. PAULO

ao importante certamen, que é orgulho da industria nacional, tendo sido deliberado a publicar um livro memorativo dedicado á industria, commercio e lavoura do Distrito.

A ABOLIÇÃO DO SERVIÇO NOCTURNO NAS FABRICAS

Como factor preponderante no aumento da robustez feminina

TOKIO, Junho de 1929 — O problema da dupla-safra vinha sendo agitado por toda a classe de agricultores de arroz desta província, desde que um agricultor de nome Ruiji Kinukawa inventou, em 1889, uma nova raça de arroz, de lapido amadurecimento. À medida que a falta deste genero de primeira necessidade infestava, cada vez mais intensa, nos mercados, mais se impunha ao povo de Kochi a necessidade de levar o problema á solução favorável, o que se deu ultimamente. O Instituto Agronomico desta província acaba de colher resultado satisfatório acerca do novo sistema e está fornecendo as instruções relativas ao mesmo. Com a introdução do novo sistema esperase que aumente de 9.000.000 litros a produção de arroz neste centro agrícola.

Dr. Yempai Kikuchi
MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

IMPRESSOS!!!

Nas officinas de "Nippak"

Aoki, ministro japonês.

A serenidade de carácter de que era possuidor Mutsu, ministro das Relações Estrangeiras, não deixou de sentir fortes abalos diante dessa surpresa de mao gosto que o veio chocar. Todo o entusiasmo, toda a alegria de ha poucas horas se transformaram em valles mais profundos de desespero, onde, a despeito da aflição tamanha, sempre procurou abrir um caminho para retirar esse contrateempo tão brusco. E telegraphou imediatamente ao ministro japonês em Seül, recomendando que informasse sobre a veracidade de tal ocorrência levada ao conhecimento do governo britannico pelo consul inglez alli residente. Restavam, nessa hora, apenas 24 horas para dar satisfação ao governo britannico, sobre o caso Coldwell, tempo insuficiente para esperar a resposta de Seül que não chegava. Como um raio, Mutsu resolveu usar o seu "navalhismo". E fel-o, enviando ao ministro Aoki em Londres o seguinte telegramma, sob a sua responsabilidade propria, sem esperar a resposta de Seül:

Snr. Ministro —

Em resposta vossa telegramma hontem, tenho honra informar que governo japonês jamais insinuou governo coreano para dispensar Coldwell.

Mutsu, ministro das Relações Estrangeiras.

Essa resposta foi, porém, confirmada pelo telegramma que Mutsu recebeu do ministro japonês em Seül, acrescentando que o consul geral da Inglaterra em Seül estava agindo de modo que tornasse difícil a situação dos japonezes em Corea, pelo que o informante solicitava a satisfação do governo britannico sobre se essa acção do representante inglez reflectia bem a ordem do seu governo.

* * *

Dias passaram sem que Mutsu recebesse qualquer comunicação do seu subalterno de Londres. A crudelidade do grande diplomata estava no auge, quando, na madrugada de 17 de julho, o chefe do telegrapho bateu à porta do seu dormitorio.